

日本美術の1000年 — 時代・思想・表現でたどるビジュアルマップ —

時代	平安 (900-1185)	鎌倉 (1185-1333)	南北朝・室町 (1333-1573)	安土桃山 (1573-1603)	江戸 (1603-1868)	明治～大正 (1868-1926)	昭和戦前～戦後 (1926-1989)	平成～令和・現代 (1989-2025)
美術スタイル	やまと絵・ 大和文化の確立 	写實的彫刻・武家文化 	水墨画・侘び寂び 	金碧屏風・豪華絢爛 	浮世絵・琳派・町人文化 	洋画導入・日本画再編 	前衛芸術・戦後アート 	ポップ、 日本的モチーフ再構築 
代表作	源氏物語絵巻 信貴山縁起絵巻 	運慶・快慶の仏像 	雪舟の山水画 	狩野永徳「洛中洛外図」 	葛飾北斎「富嶽三十六景」 尾形光琳「風神雷神図」 	黒田清輝 横山大観 	具体美術協会 岡本太郎 	村上隆 草間彌生 チームラボ 
特徴	物語性・宮廷文化 	写実性・武士の信仰 	禅宗文化 モノトーンの世界 	権力の視覚化 金箔・大画面 	大衆美術の台頭 量産技術 	西洋と日本の融合 	前衛性・実験精神 	サブカル・テック融合 
世界との関係	唐文化の影響薄れ、 日本独自化	宋・元と接続	中国（水墨）文化と接続	キリスト教文化と接続	ジャポニスムとして 欧州に影響	文明開化、技術輸入 西洋文化と接続	アメリカ抽象表現主義 前衛運動の影響	グローバルアート 世界市場へ躍進 日本美術が世界語になる